

平成 29 年第 6 回美唄市教育委員会会議録

1 と き 平成 29 年 3 月 22 日（水）
午後 4 時 00 分～午後 5 時 00 分

2 ところ 教育委員会室

3 出席委員

星野教育長 高橋委員 森田委員 齋藤委員 土肥委員

4 説明員

伊藤教育部長 阿部学務課長 西田学務課補佐 日下学校給食センター所長
畑島指導室長 谷村生涯学習課長 谷川生涯学習課長補佐
川西スポーツ振興課長 高田図書館長 高橋総務係長

5 開会

土肥委員を署名委員に指名

会期を 1 日と決定

6 議件名

議案第 9 号	学校職員の処分内申の件
議案第 10 号	招致外国青年就業規則の一部改正の件
議案第 11 号	美唄市立学校管理規則の一部改正の件
議案第 12 号	美唄市スポーツ推進委員委嘱の件
その他 1	平成 29 年第 1 回市議会定例会一般質問について
その他 2	美唄市立学校職員服務規程の一部改正について

概要記録

16:00

●星野教育長 ただいまから、平成 29 年第 6 回美唄市教育委員会会議を開催いたします。順序第 1 会議録署名委員に、土肥委員を指名します。

次に、順序第 2 会期の決定につきましては、本日 1 日とします。

本日は、順序第 4 議案第 9 号に学校職員の処分内申の件の議題がありますので、日程を変更し、先に、この案件について協議いたします。事務局から説明いたします。

(学務課長 説明)

●星野教育長 ただいまの件につきまして、各委員さんから質問等ございますか。なければ、議案第 9 号については、提出された内容で決定することといたします。暫時休憩いたします。

(休憩)

(説明委員 入室)

●星野教育長 会議を再開いたします。

本日は、議事日程 順序第 4 に人事案件がありましたので、日程を変更し、議案第 9 号を先に協議したことを報告いたします。それでは、会議を続けます。

順序第 3 教育長報告、行事報告・行事予定について、事務局から説明をお願いします。

●伊藤教育部長 資料に基づきましてご報告いたします。

※教育長報告（添付資料 別紙 1）

※行事報告、行事予定説明（添付資料 別紙 2）

●星野教育長 ただいま、教育長報告、行事報告・行事予定について、事務局から説明がありましたが、何かご質問はありませんか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 なければ、次に移ります。順序第 4 議案第 10 号 招致外国青年就業規則の一部改正の件を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

●阿部学務課長 議案第 10 号 招致外国青年就業規則の一部改正についてご説明いたします。改正理由といたしましては 2 つございまして、1 つには外国青年、ス

ティーブンの報酬額について改正しようとするものでございます。これにつきましては、382千円を400千円と4.7%引き上げようとするものでございます。2つ目の理由といたしましては、今年度採用いたしました、ALTのシモネーさん、平成28年7月に着任していただきましたが、この中の勤務要件を定めた一般財団法人自治体国際化協会から実施するJETプログラムというのがございます。そのプログラムの平成28年度長期外国青年任用要領というものがありまして、これとティーブンの長期外国就業規則との整合性を図るために規則を改定しようとするものでございます。ティーブンさんにつきましては、教育委員会と直接、雇用契約を結んでおります。シモネーさんにつきましては、プログラムを通じて、外国語指導助手を当市に配置していただくということで、JETとの契約ということになっています。ティーブンの契約とJETプログラムで派遣されているシモネーさんの就業規則と内容を一致させるというのが狙いでございます。議案第10号参考資料をご覧になっていただきたいと思います。新旧対照表付いておりますが、外国青年 外国語指導助手ということで、新たに規定し直しております。第3条の外国青年の職務ですが、これにつきましては、現在のシモネーさんの就業規則と同様の内容ということで、改正しております。主な活動内容としては、市内小中学校における外国語授業等の補助、市内小学校における外国語活動の補助、外国語教材の作成の補助、外国語科担当教員等に対する現職研修の補助などを定めておりますので、この内容に改正したということになります。第7条につきましては、外国青年の報酬は、月額400千円ということで、今までは382千円ですので、4.7%増額して改正したということになります。それから、第10条の勤務時間で、以前は1日8時間、1週間で8時間×5日で40時間という規定になっておりましたが、1日7時間、週35時間ということで、改めて規定し直そうということであります。また、10条第2項ですが、午前8時30分から午後5時15分までを、8時15分から午後4時までと改めます。第4項のところは、1日8時間を超えて勤務させないを7時間に改めるということになります。第23条のセクシャルハラスメントの禁止という条項が、新たにJETの方にありますので、これについても規定の中に入れまして、外国青年は、性的な言動によって他の職員に不快感を与えたり、就業環境を害してはならないという規定を盛り込みました。以上でございます。

●星野教育長 ただいま、外国青年の職務、報酬、勤務時間等についての説明がありました。この件について何か質問等がありましたらお伺いします。

●高橋委員 報酬は定額ですか。ずっとこの額でということですか。

●阿部学務課長 スティーブンの報酬については市が定めるもので、しばらく、市

の健全化計画があり改定をしていなかったもので、今回、市の職員も 4.7%の改定がありましたので、あわせて改定したということになっております。シモネーさんは J E T の方で定めた金額を市が払うということになっておりますので、シモネーさんとスティーブンさんの報酬額の決め方で違いがあります。

●高橋委員 スティーブンさんは、契約年数とか決まっていますか。

●阿部学務課長 スティーブンさんについては、契約年数の決まりはなく、毎年、雇用の更新をしています。

●高橋委員 市の職員と同じ立場になるのですか。

●阿部学務課長 立場的には嘱託職員扱いになります。職員の給料も上がりましたので、今回、報酬額の改定をいたしますが、他の手当はない形になっていますので、400 千円×12 か月分がスティーブンさん報酬となっています。基本的には、市の職員にあわせて、同じ率で上げていかなければならないと考えています。

●星野教育長 他にありませんか。ないようですので、議案第 10 号 招致外国青年就業規則の一部改正の件については、原案どおり決定いたします。

次に、議案第 11 号 美唄市立学校管理規則の一部改正の件を議題といたします。

●阿部学務課長 議案第 11 号、美唄市立学校管理規則の一部改正の件についてでございます。この件につきましては、学校職員の人事異動の発令について発令通知により行なうため、事務の引継ぎ及び赴任に対する規定について、所要の改正をしたいということであります。新旧対照表をご覧ください。旧の方で第 23 条、職員の採用、転任等の辞令を受けたときは、7 日以内に赴任しなければならないという規定になってございます。これが新しい方では、発令の通知を受けたときはということで改正になっています。内容としましては、4 月 1 日の辞令の交付をもってから、赴任しなければならないということになっているのですが、今度は発令の通知をもって赴任できることになりました。3 月 31 日に通知をすることになっておりますので、1 日だけの違いなのですが、この通知をもって赴任をすることが可能ということになりました。第 24 条の校長先生の引継ぎの規定につきましては、旧の方には辞令を受けたときには、事務の引継ぎを行うことになっておりますが、今後は発令通知が出たときには事務の引継ぎを行う規定となっております。以上です。

●星野教育長 ただいまの件につきまして、何かご質問等ございませんか。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、議案第 11 号 美唄市立学校管理規則の一部改正の件については原案通り決定いたします。

次に、議案第 12 号 美唄市スポーツ推進委員委嘱の件について議題といたします。

●川西スポーツ振興課長 議案第 12 号 美唄市スポーツ推進委員委嘱の件につきましてご説明いたします。本件は、スポーツ基本法及び美唄市スポーツ推進委員に関する規則に基づき、この3月31日をもって、現在のスポーツ推進委員さんの任期が満了いたしますことから、各関係団体から委員を推薦いただき、議案のとおり委嘱しようとするものであります。委員定数は、美唄市スポーツ推進委員に関する規則によりまして20名以内されておりますが、議案に記載の17名を委嘱するものとして、うち、再任は13名で新任は4名、任期は平成29年4月1日から2年間、平成31年3月31日までとなっております。以上よろしくご審議のほどお願いいたします。

●星野教育長 ただいま美唄市スポーツ推進委員委嘱の件について説明がありました。この件につきまして、何かご質問があればお受けいたします。

●各委員 ありません。

●星野教育長 ないようですので、議案第 12 号 美唄市スポーツ推進委員委嘱の件については原案通り可決いたします。

次に、その他 1 平成 29 年第 1 回市議会定例会一般質問について議題といたします。

●伊藤教育部長 資料に基づきまして、一般質問ご報告をさせていただきます。まず、会期につきましては3月1日から本日22日までの22日間でした。教育委員会から提出しました案件につきましては2件ございまして、1つは補正予算がございました。内容は小中学校の暖房用燃料費の補正ということで、燃料単価が上がったということと寒い日が続いて燃料費に不足が生じるということで、小中あわせて8,000千円程度の補正をしております。もう1つは、放課後児童施設条例の一部改正の件であります。中央小学校区の施設の定員の見直しでありまして、今まで70名定員でしたが、増員が見込まれますので80名定員で10名増員したという内容でございます。一般質問につきましては、2日間、7日、8日と行われまして、全部で9名の議員の質問がありまして、そのうち6名の方から教育委員会関連の質問がございました。内容だけ説明させていただきます。

※一般質問、答弁内容説明（添付資料 別紙3）

●星野教育長 ただいま、補正予算の関係で小中学校の暖房費の不足の補正と中央小学校区の放課後学校施設の定数見直しの件、それと併せまして、市議会定例会の一般質問に対する質疑の内容について説明がありました。ただいまの件について、

何かご質問等ありましたらお伺いいたします。

●齋藤委員 森川議員から、日の丸、君が代について質問がたびたびありますが、議会の中では、どのような取り扱いになっているのか様子を聞かせていただきたいと思います。議場の国旗の掲揚ですとか、その場合、議員の皆さんがどのような対応をされているのかとか。

●伊藤教育部長 美唄市での議場の中での国旗等の掲揚は、今のところはしていません。議会の中に、議会運営委員会というのがありまして、その中では掲揚したほうがいいのではないかというような議論が、今進められているというような話を聞いています。

●齋藤委員 たまたま毎年、成人式に出席させていただいているのですが、議員の方もいらっしゃるのですが、国歌斉唱の時に、立っていただけない議員の方もいらっしゃる。議会の方はどういう形で取り扱っているのか確認したかっただけです。

●星野教育長 他に何かございませんか。

●高橋委員 市民会館の指定管理につきまして、一般質問とは関係ないのですが、食堂の方がまだ決まってないという報道がありましたし、見通しについてはどうなんですか。

●伊藤教育部長 新聞報道にありましたように、メロディーにも載せましたけれども、今の食堂をやられている業者さんが、今年度いっぱい辞めたいというお話がありましたので、新たに募集することにしまして、募集期間が明後日の 24 日が締め切りとなっています。今の時点で、具体的な申請書の提出はまだない状況です。

●高橋委員 ない場合はどうするのですか。

●伊藤教育部長 どうするかということにならないのですが、例えば、売店にするとか、あるいは、食べ物を扱う自販機を置いた開放スペースにするとか、そういうような検討もこれからやっていかないといけないと思っています。

●星野教育長 他にございませんか。ないようですので、平成 29 年第 1 回市議会定例会一般質問については、これで終了いたします。

次に、その他 2 美唄市立学校職員服務規程の一部改正について説明をお願いします。

●阿部学務課長 その他 2 美唄市立学校職員服務規程の一部改正についてでございますが、新旧対照表をご覧ください。先ほど、議案第 11 号で美唄市立学校管理規則一部改正の件についてご審議いただきましたが、これと同趣旨のものでございます。新旧対照表の第 2 条第 3 項をご覧くださいと思います。旧の方ですけれども、

所属職員は転任若しくは休職にされ、又は失職し、退職し、若しくは免職されたときには、校長の指示により、後任者に担任事務を引き継ぎをしなければならないという規定がございますが、先ほど、校長先生の事務の引継ぎの規定がございましたが、こちらにつきましては所属職員、一般教職員の事務の引継ぎについて改正しようとするものでございます。旧の方では失職と免職がありましたが、新しい方には、失職、免職については規定から削除しております。執行期日につきましては、学校管理規則については公布の日としておりましたけれども、本日ということになりますが、この規定につきましても、本日を施行日ということで考えております。以上でございます。

●星野教育長 ただいまの件についてご質問等あればお受けいたします。

●各委員 ありません。

●星野教育長 それでは、この件について終わらせていただきます。本日の議題についてはすべて終了しましたが、他に何かありませんか。

●伊藤教育部長 事務局からはありません。

●星野教育長 なければ、これをもちまして平成 29 年第 6 回美唄市教育委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

17:00 終了

以上会議の顛末を記載し、その相違無いことを証するためここに署名する。

署名委員 土井 淳子

【別紙 1】

教 育 長 報 告

自 平成 29 年 2 月 16 日

至 平成 29 年 3 月 21 日

区 分	会 議 等
2月16日	第 3 回教育委員会議 教育委員室
18日	びばいスポーツシンポジウム ホテルスエヒロ
23日	「ランドセルカバー」贈呈式（コープさっぽろ） 教育長室
24日	感謝状贈呈（(株)環商事） 市長応接室
24日	平成 28 年度空知管内教育実践表彰式 空知合同庁舎(岩見沢市)
27日	第 4 回教育委員会議
28日	平成 28 年度学校給食運営委員会 市長会議室
3月 1日	第 1 回市議会定例会（～3/22） 議場ほか
2日	学力向上指定事業推進協議会 東小学校
8日	2017 第 1 回美唄市チャレンジデー実行委員会 市長会議室
9日	第 5 回教育委員会議
13日	「新入生児童用干支マスコット」寄贈（美唄市老人クラブ女性部） 教育長室

上記のとおり報告する。

平成 29 年 3 月 22 日

美唄市教育委員会

教育長 星 野 恒 徳

2 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
16	木	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
		7か月児ブックスタート（7か月児健診）	13:00	保健センター	市民
17	金	第11回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
18	土	郷土史料館移動展「写真でふり返る昭和の風景」（～28日）		コアびばい市民ふれあいサロン	市民
		おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	市民
		びばいスポーツシンポジウム	15:00	ホテルスエヒロ	市民
19	日				
20	月				
21	火				
22	水				
23	木	3歳児ブックスタート（3歳児健診）	13:00	保健センター	市民
24	金	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	市民
25	土	市内小中学校絵画・書道展③（～3月5日）	9:00	安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄	市民
26	日				
27	月				
28	火				

3 月 行 事 報 告

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	対 象
1	水				
2	木	第12回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	関係者
		読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
		7か月児ブックスタート（7か月児健診）	13:00	保健センター	市民
3	金	第12回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	関係者
4	土				
5	日	スポーツ健康都市宣言記念事業 第30回スキーアドベンチャー	9:00	ゴルフ5カントリー美唄コース	市民
		美唄サテライト・キャンパスwith札幌国際大学合同演奏会	13:00	市民会館	市民
6	月				
7	火				
8	水				
9	木	第3回臨時校長会議	16:00	第4会議室	指導室
10	金				
11	土	卒業式（中学校）		各中学校	
		おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	市民
12	日	第23回ポロピンネ3on3バスケットボールフェスタ	9:00	総合体育館	市民
13	月				
14	火				
15	水				
16	木	卒園式（栄幼稚園）		栄幼稚園	
		読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	市民
		3歳児ブックスタート（3歳児健診）	13:00	保健センター	市民
17	金	卒業式（小学校）		各小学校	
18	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	市民
19	日				
20	月				
21	火				

4 月 行 事 予 定

教 育 委 員 会

日	曜	行 事	時間	場 所	所 管
1	土				
2	日				
3	月				
4	火	臨時校長・園長会議	9:15	市民会館会議室	指導室
		転入教職員辞令交付式	10:30	市民会館大会議室	学務課
5	水				
6	木	小・中学校入学式		各学校	
		読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
		ブックスタート(7か月児)	13:00	保健センター	図書館
7	金	美唄サテライト・キャンパス運営協議会総会	15:30	市長会議室	サテライト・キャンパス推進室
8	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
9	日				
10	月	栄幼稚園入園式		栄幼稚園	
11	火				
12	水	第1回定例校長・園長会議	9:30	第4会議室	指導室
13	木	3歳児ブックスタート	13:00	保健センター	図書館
14	金				
15	土	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
16	日				
17	月				
18	火	地域青少年指導員委嘱状交付式	14:00	市民会館大会議室	生涯学習課
19	水	第1回定例教頭・主幹教諭会議	9:30	第4会議室	指導室
20	木	読み聞かせ	11:30	子育て支援センター	図書館
		美唄市子ども会育成連絡協議会総会	18:00	市長会議室	生涯学習課
21	金				
22	土				
23	日				
24	月				
25	火	第1回青少年指導員・専任指導員会議	15:00	市長会議室	生涯学習課
26	水				
27	木	ブックスタート(7か月児)	13:00	保健センター	図書館
28	金	おはなしの会3歳児ブックスタート	10:30	図書館児童室	図書館
		地域青少年指導対策協議会	13:30	大会議室	生涯学習課
29	土				
30	日				

【生涯学習課】

街頭指導 20日(木)

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

松山 教宗 議員
教育委員会スポーツ振興課

件 名 3 教育行政について

中項目 (1) スポーツツーリズムについて

質問内容

①スポーツツーリズムの現状と課題について

美唄市ではファミリーサイクリングやサイクルツーリズム、スポーツ合宿誘致などの取組が行われているが、本市のスポーツツーリズムの現状と課題について伺う。

②スポーツシンポジウムの内容と今後の考え方について

答弁内容

(スポーツツーリズムに向けた現状と課題について) であります、

①スポーツツーリズムとは、一般的にスポーツ大会への参加やプロスポーツの観戦、合宿誘致などと開催地周辺との観光を融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指した取り組みを指すものとされております。

本市におきましては、これに関連する取り組みとして、美唄山山開きをはじめ、ピパオイヘルシーロードレース、スキーハイキングなどを開催してきており、市外からも多くの方々の参加があるところであります。

また、管内ではサイクリングと地域資源である食を掛け合わせた「北海道そらちグルメフォンド」も開催されております。

そのほか、今年度は、ブラインドサッカーチーム「ナマーラ北海道」の合宿とブラインドサッカー体験会を開催いたしました。

また、合宿に関連した施設としては、多目的宿泊施設「トマーレびばい」を整備したほか、民間ホテルを合宿向けに整備するなどの動きもあるところであります。

今後の課題といたしましては、企業や団体・市民の皆さんが連携し、地域全体でスポーツツーリズムを支えていく仕組みづくりについて検討が必要になってくるものと考えております。

②次に（スポーツシンポジウムの内容と今後の考え方について）でありますが、

去る2月18日開催のスポーツシンポジウムでは、「スポーツツーリズムと地方創生」をテーマに、早稲田大学スポーツ科学学術院の原田教授による基調講演と市長を含め5名の方によるパネルディスカッションを行いました。

全体として、スポーツを資源として活用して、まちの活性化を図る方策についてのアイデアなどが出されたところであります。

教育委員会といたしましては、スポーツシンポジウムの内容を踏まえ、「スポーツ健康都市宣言」に基づいた、スポーツを通じた市民の皆さんの健康増進の意識の醸成や運動・スポーツへの興味・関心を喚起することに加え、スポーツ合宿誘致の取り組みについては、対象とする種目などについて検討してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

松山 教宗 議員
教育委員会生涯学習課

件 名 3 教育行政について

中項目 (1) スポーツツーリズムについて

質問内容

1 今ほどの答弁の中に北海道そらちグルメフォンドの開催についてありましたが、まさにサイクリングと地域資源を活かしたスポーツツーリズムであると思います。このようなイベントの参加者を増やし、地域振興を図るためには底辺の拡大が大切であると考えます。

平成 28 年第 2 回定例会でサイクリングの普及について伺いました際に、「子どもから高齢者まで多くの市民が取り組むことができ、スポーツの振興や市民の健康増進につながるものと認識していること、ファミリーサイクリングの継続実施や子どもサイクリング体験会や各種大会の開催など、サイクリング関係団体のご協力を得ながら検討していく。」と前教育長からお答えをいただいております。

今後のサイクリングの普及について再度教育長に伺います。

2 先日、昨年に引き続き第 2 回目のウィンターゴルフがゴルフ 5 カントリークラブを会場に開催されましたが、歩くスキーや雪上を走るファットバイクサイクリングや子どもたちが遊べるなどの種目を一緒に行うなど冬期間のスポーツツーリズムを推進してはどうか伺います。

答弁内容

（サイクリングの普及について）でありますが、

サイクリングは、子どもから高齢者まで多くの市民が取り組むことができ、自分の体力や技術に応じた楽しみ方があるスポーツであり、教育委員会としては、普及拡大のためファミリーサイクリングを継続するとともに、その中で子ども向けのサイクリング教室の開催など、指導のノウハウを持つサイクル団体と協議検討してまいります。

また、年齢や技術を問わずに参加できるイベントの開催について検討してまいりたいと考えております。

次にウィンターゴルフなどの冬季のスポーツツーリズムについてでありますが、

ウィンターゴルフについては、民間事業者を中心に市民の皆さんが参画し実行委員会を組織し、取り組んでいると承知しております。

このことにつきましては、民間事業者の発想や強みを生かしたサービスを担っていただけるものと考えております。

教育委員会といたしましては、スキーハイキングやアルペンスキー大会などこれまでの行事の内容について、新たな展開が可能かどうかなど検討してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 1 労働教育について

中項目 (2) ワークルール教育推進について

質問内容

働く側が労働のルールを知らないことで様々な不利益が生じており、小中学校の段階で権利やルールの知識を身に付ける必要があると考える。そこで、教育委員会が取り組んでいる労働教育の実態とワークルール教育の必要性について教育長に伺う。

答弁内容

（労働教育について ）であります、
本市では、児童生徒が将来、社会人・職業人として主体的に自分の人生を生きるために必要な能力や態度を育成することを目的として、発達段階に応じたキャリア教育を各学校それぞれの実態に応じて行っております。小学校では「職業観」の基盤をつくる場と捉え、社会科見学において市内の事業所を見学することにより、働くことの大切さや様々な仕事があることを知り、中学校では「勤労観、職業観」の育成の場と捉え、総合的な学習の時間の中で市内の企業や官公庁において職場体験を行い、実際に仕事をしている人と接し、働くことの意義や目的について、理解の育成を図っております。
また、中学校社会科の公民的分野において、「働く人たちの権利」

について学習しております。

次に、ワークルール教育の必要性についてであります。働く側が自己の権利や労働のルールの知識が乏しいことにより、特に高校生など若年層において労働トラブルや不利益が生じているなどの報道があることから、発達段階に応じて必要な知識を身に付けることは大切であるものと受け止めております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 1 労働教育について

中項目 (2) ワークルール教育推進について

質問内容

超党派の議員連盟がワークルール教育推進法案を国会に提出する動きがあるが、美唄市としてこの動きを待たずに小中学校においてワークルール教育を推進する考えがあるのか。

答弁内容

（小中学校でのワークルール教育について ） ではありますが、児童及び生徒の発達段階に応じて、授業やその他教育活動においてワークルール教育の機会を確保することは必要と考えますが、教職員の研修や授業数の枠などの課題もありますことから、国や道の動向を注視してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (1) 学校教育について

質問内容

①学校の適正配置について

学校の適正配置については、一定の方向性の取りまとめを行い、これをもとに、合意形成に向け、保護者や地域の皆さんとの意見交換を進めると述べています。これまでは、地域から統合の声が上がったら、学校統合を進めてきたと認識しているが、見解が変わり教育委員会としては、地域に統廃合を投げかけて議論するのか伺う。

②健やかな体の育成について

健やかな体の育成については、朝食の摂取や睡眠時間など、正しい生活を身に付けることが身に付けるため、家庭と連携して啓発と指導に努めて行くと述べています。

教育委員会と JA びばいと協力して実施している「子ども朝食会・早寝早起き朝ごはん」の美唄中学校の生徒に朝食を提供する取組は、今後とも継続していく取組みなのか伺う。ぜひ、今後とも継続した取り組みをお願いしたい。

③教職員研修の充実について

職員研修の充実については、教員のスキルアップやコンプライアンスの確立など大変重要な課題であると認識している。新年度どのような取り組みを予定しているのか。また、これらと合わせて、教育

行政執行方針では触れられていないが、教職員の労働環境の改善について、教職員の負担軽減についてどのような考え方を持っているのか見解を伺う。

答弁内容

（学校教育について）であります、

①はじめに、学校の適正配置についてであります、これまで進めてきた考えと同様、児童生徒数の推移を見ながら検討を進めてまいります。意見交換を進めるに当たりましては、各学校の現状、将来の児童生徒数の見通しなどについて共通の認識を持てるようにご説明してまいりたいと考えております。教育委員会といたしましては、なによりも、保護者や地域の皆さんとの合意形成が前提であると考えており、本市における学校の適正配置については、多くの市民の皆さんのご意見を伺ってまいりたいと考えております。

②次に、健やかな体の育成についてであります、朝食は、生きるために必要なエネルギーとなるだけではなく、一日のリズムをつくる上でも大きな役割を果たしていることから、市内の小中学校とともに、「早寝・早起き・朝ごはん運動」を進めております。教育委員会といたしましては、子どもが、自ら、正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健やかに成長していくために、今後とも、この運動を進め、朝食の摂取を促してまいります。また、「子ども朝食会」につきましては、ＪＡびばいや学校と協議しながら、継続について検討してまいります。

③次に、教職員研修の充実についてであります、来年度の取組みといたしましては、これまでの教職員研修のほか、平成32年度から実施予定の新しい学習指導要領の考え方を共有するため、各校の管理職や担当教諭で構成する「教育課程検討委員会」を設置し、カウンセリングの実践プログラムの検討や道徳、外国語活動・英語教育の指導方法の改善充実を図ってまいりたいと考えております。

教職員の多忙化対策についてではありますが、改善策といたしましては、給与支給日や隔週の金曜日を定時退勤日とするほか、部活動の休養日の設定、会議の見直し、時間外勤務縮減等強調月間の年2回設定などの取組みを行っております。また、週休日等を長期休業期間中などに振り替える制度の活用のほか、修学旅行の引率業務や学校祭の事前準備などに従事した場合の週休日の振替や休憩時間の変更制度も活用されております。

教育委員会では、教員一人1台のパソコン配置による校務の効率化や学校支援地域本部事業で確保した学校ボランティアの活用などを通じ、教員の負担軽減と子どもたちと向き合う時間の確保に努めているところであります。

今後とも、各学校の取組みについて、適切に把握するとともに、その進行管理や指導助言に努めてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (1) 学校教育について

質問内容

①学校の適正配置について

教育委員会として、学校適正配置に関する計画を保護者や地域に提示し、意見交換を行おうとしているのか伺う。

②健やかな体の育成について

美唄中学校の生徒に朝食を提供する取組は、今後、他の中学校地域でも実施できないか伺う。

③教職員研修の充実について

学校支援地域本部事業での学校支援ボランティアの活動内容について伺う。

・ボランティア登録数、登録している方の職業、支援している学校数、支援の実施回数、支援内容について

答弁内容

(学校適正配置について) であります、

①教育委員会といたしましては、計画を策定してからではなく、市全体についての情報を共有したうえで、教育委員会が取りまとめた考え方をもとに、学校の適正配置に関して、意見交換を行ってまいりたいと考えております。

②次に、健やかな体の育成についてではありますが、「子ども朝食会」につきましては、ボランティアとしてお手伝いいただく方の確保などの課題もありますので、ご協力いただいているJAびばいと
の協議の中で、来年度につきましては、美唄中学校区での継続について、検討していくこととしております。

③次に、学校支援ボランティアの活動についてではありますが、本年2月現在で申し上げますと、ボランティアの登録数は、個人65人と3団体、登録いただいている方の職業につきましては、教員0名、公務員、会社員、主婦の方など様々です。

ボランティアを派遣している学校につきましては、小学校5校、中学校2校であり、今年度の実績では2月末で、派遣回数は延べ118回、派遣人数は延べ385人で、水泳授業、放課後学習、絵本の読み聞かせ、夏休み・冬休みの学習、書初め体験学習、スキー授業などで、ご協力をいただいております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再々質問

吉岡 建二郎議員

教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (1) 学校教育について

質問内容

①美唄中学校の生徒に朝食を提供する取組は、他の地域でも実施できないか。

②学校ボランティアに対する児童生徒に接する際の注意点について、どのように対策しているのか。

教育長の見解を伺う。

答弁内容

（美唄中学校の生徒に朝食を提供する取組についてであります
が、 ）であります、

①他の地域での実施については、実施が出来るのであれば学校と関係団体と協議してまいりたいと考えております。

②支援するにあたっては、学校と連携が必要と考えております。子ども達の良い学習環境につながるよう学校と連携して対応してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会生涯学習課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (2) 社会教育について

質問内容

1 点目として、青少年の健全育成についてですが、教育行政執行方針において、人間関係の希薄化等が進みとありますが、私は、希薄化しているとは思ってはおりません。

教育長は、どのような考えで、人間関係が希薄化していると認識しているのか伺います。

2 点目ですが、生涯学習についてですが、情報化の進展により、青少年への情報モラルの育成や情報通信機器の適切な取り扱いなどに対する取り組みについて、述べられておりますが、市民全体としての取り組みになっていないと感じております。

情報化の進展により色々な可能性が広がっている半面危険性もあることから、青少年のみならず、市民全体への取り組みとしていただきたく、その考え方について伺います。

あわせて、社会教育施設についてですが、公立図書館の役割として、所蔵する重要な資料の管理と活用は、どのようにされているのでしょうか。

また、放課後児童施設への配本は、図書の入替期間や冊数について、どのように考えているか伺います。

答弁内容

（青少年の健全育成について）でありますが、

教育行政執行方針の中で、「人間関係の希薄化等が進んでいる」という認識を述べた理由につきましては、地域の中で子どもたちの数が減少していること、子どもたちが戸外で遊ぶ姿が減っていること、子どもたちが少年団活動や学習塾などへ行くことで、自宅やその付近にいる時間が減っていることなどから、大人が子どもと直接、触れあったり、あいさつや会話を交わすことが少なくなっている本市における状況を見て、述べたものであります。

このような認識については、中央教育審議会の平成25年答申や北海道青少年健全育成基本計画などの中にも同様な記述がみられるところであります。

次に、生涯学習事業について であります。市民全体への情報モラルの育成や情報通信機器の適切な取り扱いなどについては、本市におきましては、これまで大人を含めた「ケータイ教室」や「親学講座」を開催し、携帯電話やスマートフォン、パソコン等の最新の情報やトラブルの未然防止策などについて、市民の皆さんとともに学ぶ場を設けてきております。

また、情報通信事業者においても青少年向けやシニア向けを含めたスマホ・ケータイ安全講座などを開催しており、教育委員会としても、これら事業者のご協力をいただき、情報モラルの普及・促進に努めて参りたいと考えております。

次に、図書館の資料の管理について であります。図書館の収蔵資料のうち、希少な図書や重要な郷土資料については、貸出対象外として、書庫および郷土史料室で保管しており、閲覧をご希望の方には、館内での閲覧をお願いしております。

また、これらの資料の活用につきましては、昨年の読書週間特別展において「暮らしの手帖」創刊号などを展示いたしましたように、企画展等において市民の皆さんに公開して参りたいと考えております。

次に、放課後児童施設への配本についてであります。来年度から、現在行っている中央小学校区及び東小学校区の施設に加え、南美唄小、峰延小、茶志内小の3校区の施設においても、配本を行うこととしております。

配本の冊数につきましては、登録児童数が多い中央小学校区及び東小学校区の施設には100冊程度、他の小学校区の施設には50冊程度を予定しており、入替の期間については、半年ごとに各施設の要望も踏まえて、図書の内容や冊数を調整したうえで配本を行って参ります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会生涯学習課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (2) 社会教育について

質問内容

教育長の答弁では、青少年と「地域社会の大人」との間での人間関係の希薄化は、青少年側に問題があるように捉えているかのように聞こえます。青少年と「地域社会の大人」との関係を改善してくことを考えるのであれば、「地域社会の大人」の側から青少年に働きかけていくことが必要と思います。「地域社会の大人」が青少年のもつコミュニケーションの道具に慣れ親しみ、同じ舞台に立ち、関係を築いていくことが重要だと考えます。

課題を解決するために動くべきは「地域社会の大人」であり、そこに焦点を当てていくべきではないかと考えますが、教育長はどのようにお考えでしょうか。

答弁内容

(青少年を取り巻く状況について) ではありますが、

近年、社会状況が急速に変化していることは、共通の認識としてあるかと思いますが、ご質問にありましたように、大人が高度情報化社会で育っている青少年を理解する努力が必要であることに關しては、私も同様に考えております。

本市においては、「美唄市教育の日」が制定され、市民総ぐるみ

で、青少年の健全育成に取り組もうという気運が生まれてきておりますので、教育委員会としても、そのような社会状況を踏まえ、市民の皆さんと手を携えて、この動きを力強く進めて参りたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 3 学校図書館について

中項目 (1) 学校司書の配置について

質問内容

学校司書の配置について

- ①本市の学校には学校司書は配置されているか。
- ②配置されていない場合には、配置について検討する考えはないか。

答弁内容

（学校司書の配置について ）であります、

- ①本市には学校司書は配置しておりませんが、司書教諭の資格を有する者が4校に6名おります。
- ②今後の学校司書配置の考え方についてであります、教育委員会といたしましては、平成27年の学校図書館法の改正により、学校司書の配置が努力義務化されたことを踏まえ、国の交付金の活用なども念頭に、学校司書の配置に向けて検討してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 3 学校図書館について

中項目 (1) 学校司書の配置について

質問内容

学校図書館の管理運営について

- ・ 図書の紹介、蔵書の管理はデータベース化しているのか。
- ・ 蔵書を更新するための本の内容や品質チェックをしているのか。
(古い本は廃棄がきちんと行われているか。)

答弁内容

(学校図書館の管理運営について) であります。
図書の紹介については、図書館内や廊下を使った新刊等に関する掲示のほか、ホールなどでの図書の展示など学校ごとに工夫をしながら、行っております。

蔵書の管理については、図書貸出カードなど紙ベースで行っており、データベース化はできておりません。

図書の傷みや汚れなどについては、図書館担当教員が確認し、必要に応じて、補修や買い替えを行っております。

廃棄については、学校図書館廃棄基準に基づき、記述されている内容・資料・標記等が古くなり利用価値の失われた図書は、廃棄することとしております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再々質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 3 学校図書館について

中項目 (1) 学校司書の配置について

質問内容

- ①学校司書の配置の必要性について
 - ②データベース化の必要性について
- 改めて教育長の考え方を伺う。

答弁内容

（学校司書の配置について ）であります、

- ①国の交付金の活用なども念頭に、学校司書の配置に向けて検討してまいりたいと考えております。
- ②データベース化については、必要なことでありどのような形でできるか検討して参ります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 3 学校図書館について

中項目 (2) 学校図書の蔵書数について

質問内容

平成 27 年度末での各学校の学校図書の蔵書数について伺う。

答弁内容

（学校図書の蔵書数について ）であります、
平成 27 年度末で学校別に申し上げますと

中央小学校	6,037 冊、
東小学校	7,534 冊、
峰延小学校	2,266 冊、
南美唄小学校	3,563 冊、
茶志内小学校	4,728 冊、
美唄中学校	6,219 冊、
峰延中学校	3,391 冊、
南美唄中学校	3,646 冊、
東中学校	5,332 冊となっております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 3 学校図書館について

中項目 (3) 学校図書館図書標準冊数の達成率について

質問内容

平成 27 年度末での各学校の学校図書館図書標準冊数の達成率について伺う。

答弁内容

（学校図書館図書標準冊数の達成率について ）であります、
平成 27 年度末で学校別に申し上げますと、

中央小学校	68.9%、
東小学校	78.8%、
峰延小学校	56.1%、
南美唄小学校	64.1%、
茶志内小学校	134.3%、
美唄中学校	68.8%、
峰延中学校	62.3%、
南美唄中学校	54.3%、
東中学校	52.5%となっております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

吉岡 建二郎議員
教育委員会学務課

件 名 3 学校図書館について

中項目 (3) 学校図書館図書標準冊数の達成率について

質問内容

茶志内小学校以外の学校は、学校図書館図書標準冊数に達成していない。

今後の図書充実についての教育長の見解を伺う。

答弁内容

（学校図書館の図書の充実について ）であります、
これまで、必要な予算の確保に努めているものの、学校図書館図書
標準冊数には達していないため、平成 29 年度では青少年育成基金
を活用して図書購入費の増額を図ることとしており、今後とも、学
校図書の充実に向けてまいります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

金子 義彦 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政執行方針について

中項目 (1) 学校の適正配置について

質問内容

現状と取組みについて

- ①各学校ごとの児童生徒数、学級数及び複式学校数について
- ②小規模校と大規模校の利点と課題について
- ③適正配置検討の必要性和今後の進め方について

答弁内容

（はじめに、各学校の現状について ）であります、

①平成 28 年 5 月 1 日現在の児童生徒数と特別支援学級を含めた学級数で申し上げますと、

- ・ 中央小学校は児童数 292 人、15 学級
- ・ 東小学校は児童数 374 人、17 学級
- ・ 峰延小学校は児童数 28 人、4 学級
- ・ 南美唄小学校は児童数 60 人、8 学級
- ・ 茶志内小学校は児童数 31 人、4 学級
- ・ 美唄中学校は生徒数 198 人、7 学級
- ・ 峰延中学校は生徒数 26 人、3 学級
- ・ 南美唄中学校は生徒 38 人、5 学級
- ・ 東中学校は生徒 239 人、10 学級となっております。

また、複式学級のある学校は、峰延小学校、南美唄小学校及び茶志内小学校の3校となっております。

②次に、小規模校と大規模校の利点と課題についてであります。小規模校の利点としては、1つの学年が1学級でクラス替えのない学校も多く、子ども同士がお互いに顔なじみであるため、家庭的な雰囲気の中で学習できること。また、1学級の人数も少ない学校も多く、教員がきめ細かな指導を行うことができることなどがあげられます。

課題といたしましては、話し合いでの学習を行う場合には、多様な意見が出にくく、お互いの考え方を深めたり多角的な見方、考え方をすることが難しくなること。また、小学校のクラブ活動や中学校の部活動では、特に、野球やサッカーなどの多くの人数が必要な球技は行いにくいなどの課題があります。

次に、大規模校の利点と課題についてであります。利点としては、多様な人間関係に触れたり、お互い切磋琢磨する機会が多いという「良さ」があること。子どもが多くの人や教員と出会い、お互いが適度な刺激を感じながら成長していくことで、集団の中での協調性や連帯感が育まれるとともに、集団の中で自分の考えを表現する積極性や向上心が生まれることなどがあげられます。

課題といたしましては、学級数の多い学校では、授業で音楽室や運動場を使用する場合の調整が難しく、音楽鑑賞などを普通教室で行ったり、サッカーを運動場の半面でミニゲームで行うなど、授業の内容が制約されるなどの課題があります。

③次に、学校適正配置に関する検討の必要性等についてであります。本市では、少子化が進行しており、今後も続くことが予想されることから、将来的に良好な教育環境を維持していく方策を検討すべき時期を迎えていると認識しているところであります。

そのため、平成29年度には、適正配置に関する一定の方向性の取りまとめを行い、これをもとに、合意形成に向け、保護者や地域の

皆さんとの意見交換を進めてまいりたいと考えております。

なお、意見交換を進めるに当たりましては、各学校の現状や課題、将来の児童生徒数の見通しなどについて共通の認識をもてるようにご説明してまいりたいと考えております。

教育委員会といたしましては、本市における学校の適正配置については、なによりも、保護者や地域の皆さんとの合意形成が前提であると考えており、多くの市民の皆さんのご意見を伺ってまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

金子 義彦 議員

教育委員会スポーツ振興課

件 名 2 教育行政について

中項目 (2) 生涯スポーツについて

質問内容

①生涯スポーツの振興・合宿誘致について

教育行政執行方針の生涯スポーツの振興と合宿誘致について伺います。

まずは、生涯スポーツの振興についてでは、クライミングについて、昨年、体育センターにボルダリング壁を整備したことにより、美唄工業高校時代からあるリードとの 2 つの壁になり、道内でもそのような施設は数が少ないと聞いているが、その利用の現状や合宿誘致への活用について伺うとともにオリンピックの正式種目に追加されたスポーツクライミングでは、リード、ボルダリング、スピードの壁によって競われると思うが、3 つ目のスピード壁を整備することによって利用の拡大や合宿誘致にも効果的と考えるが整備する考えについて伺う。

次に、合宿誘致については、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致を目指し、情報収集や本市の PR 活動を継続するとともに実業団や大学、高校などのスポーツ合宿に取り組むとしているが、現状について伺うとともに平成 29 年度予算では、東京オリンピック・パラリンピック合宿誘致推進事業に、多言語による合宿誘致サイトの作成が予算計上されているがそれはどのようなものか伺う。

答弁内容

(生涯スポーツの振興等についてであります)

はじめに、クライミング壁の活用等についてであります、

昨年10月、体育センターにボルダリング壁を整備し、道内では唯一、リードとボルダリングの2つの壁を有する公共施設となったところであります。

ボルダリング壁の設置後、11月にクライミング体験会を開催したところ市内外から115名の参加者があり、クライミング利用者数は前年と比べて2割ほど多くなったところであります。

クライミングを目的とした合宿については、多目的宿泊施設「トマーレびばい」が整備されることを紹介したところ北海道立遠軽高等学校山岳部や北海道山岳連盟のユースが合宿を検討しているとのことであります。

なお、スピード壁の整備につきましては、幅3メートル、高さ15メートルの壁を2レーン設置することとなりますが、体育センターの天井高が約10メートルしかないなど、建物の構造上、設置については困難な状況であります。

次に、合宿誘致の現状等であります、

総合体育館を卓球競技の練習会場として、東京オリンピック、パラリンピック組織委員会のキャンプ地ガイドに登録し、現在、同委員会の専用サイトに掲載されております。

また、担当者が東京周辺の各種競技団体を訪問し、事前合宿に関する情報収集や合宿誘致のPRを行ったほか、合宿誘致の先進地を視察してきているところであります。

今後、大学や実業団など市内施設を活用し、合宿が可能である競技種目について合宿誘致に努めるとともに、平成29年度には、多言語による合宿誘致サイトを市のホームページ内に作成し、国内外にPRしてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (1) 教育行政執行方針について

質問内容

大綱 2 点目は、教育行政について教育長にお伺いします。

1 つ目は、「教育行政執行方針について」です。

まずは、「確かな学力の育成について」伺います。

平成 28 年における、全国学力検査等において、義務教育 9 年間を見通した経年変化では、全国水準を保っている学年や、小学校高学年から中学にかけて学力の向上が見られる学年、その一方で、学年が上がるにつれ、下降傾向が見られたりと、学年によって異なる傾向がみられます。今後、継続的に確かな学力の育成に向け、教育行政執行方針では、基礎・基本の着実な定着を図ると共に主体的で深い学びに結びつける「授業づくり」を進めていく事が重要であると述べられております。

そこで、1 点目ですが、「授業づくり」を行う上で、I C T を利用した授業づくりは大変有効であり、その為には、I C T を使いこなす教員の指導力が重要とされています。以前の議会におきましても、確かな学力の育成のため、教員の有効的な I C T 活用について伺いましたが、平成 28 年において、教員の「授業づくり」における、I C T の有効活用については、どのような状況であったか、

次に、2 点目ですが、「確かな学力」を育成する為、「習熟度別学

習」や「補充学習」の推進を通して、指導方法の工夫・改善に努めるとあります。岩見沢市の中学校では民間学習塾と提携し官民一体となった放課後補充学習などで成果を上げている例もありますが、本市におきましては、今までの体制に加え、平成２９年におきましてはどのような取り組みを考えているのか、お伺いします。

次に「特別支援教育の充実について」伺います。

普通学級に在籍しつつ、障がいの状態に応じて特別な支援を受ける、いわゆる「通級」における児童生徒は、平成２６年における、文科省初等中等教育局特別支援教育課の、平成２７年５月の調査によりますと、公立の小中学校では過去３年間で１５．９％の増加がみられるとの結果がありました。本市におきましては、道指定の「発達障がい支援モデル事業」を受け、実践研究活動を行った所です。

そこで、１点目ですが、特別支援教育における、これまでの取り組みや課題、それを踏まえて平成２９年にはどのような取り組みを行っていくのか、

次に、２点目ですが、本市におけるインクルーシブ教育についての考え方を伺います。

答弁内容

（教育行政執行方針について）であります、

① はじめに、確かな学力の育成につきまして、美唄市の小中学校におけるＩＣＴ機器の活用状況を申し上げますと、現在、各教科をはじめ、特別活動や総合的な学習の時間など、教育活動の様々な場面において、デジタルテレビや実物投影機、タブレット端末等を効果的に活用した指導が行われております。

具体的な活用の場面といたしましては、「体験学習等の情報を映像やデータとして記録する活動」、「実際に体験した内容とデータ等による情報とを見比べたりしながら、理解を深めたり、思考力を高めたりする活動」、「体育で行うマット運動などの様子を録画し、その映像を見直しながら、新たな気づきを得る活動」などがあ

げられます。

また、中学校においては、電子黒板の機能をもったプロジェクターを平成26年度に配置し、一人一人の論理的な思考を深める学習場面や、情報を交流しながらグループで学び合う場面などで活用しているところです。

教育委員会といたしましては、児童生徒が、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を身に付けるよう、今年度から、市内全ての小中学校の代表者による「ICT検討委員会」を組織し、ICT教育に係る成果や課題について協議したり、優れた実践を行っている教員を講師として研鑽を深めたところであります。

また、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用することができるよう、一層、指導方法や指導技術の充実に努める必要があることから、各学校の代表的な取組みを「実践資料集」として取りまとめ、全校に配布いたします。本資料には、ICT教育の優れた研究により、「平成28年度空知管内教育実践表彰」を受賞した、市内中学校教諭の実践資料も掲載することとしております。

今後も、情報モラル教育を並行して進めながら、実体験を客観的な視点から見つめ直したり、デジタル教材を活用して視覚的な支援を図るなどして、基礎学力の定着はもとより、思考力や表現力が身に付くよう、ICTの活用に取り組んでまいります。

次に、「習熟度別学習」や「補充学習」についてであります。本年度の状況を申し上げますと、「習熟度別学習」は、小学校5校と中学校3校で実施しております。主な活動としましては、小学校では算数、中学校では数学や英語の学習等において、学力別や希望別により2コースに分けて行っております。また、「補充学習」は、全ての小中学校において実施しており、始業前の時間を「ドリル学習」や「読書時間」に充てたり、放課後や長期休業中などを活用して、苦手教科の克服等に取り組んでいるところであります。

確かな学力の育成につきましては、基礎・基本の着実な定着を図

るとともに、「主体的・対話的で深い学び」に結びつける授業づくりを進めていくことが重要であることから、次年度につきましても、引き続き、「習熟度別学習」や「補充学習」、「チームティーチングによる学習」などを通じて、きめ細かな指導に努めてまいります。

② 次に、特別支援教育の充実についてであります。長期的な視点に立って幼児期から中学校を卒業するまでの一貫した支援を行うことが重要であることから、各学校において、「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」などをもとにした指導を通じて、一人一人の状況に応じた指導内容や指導方法を工夫するとともに、「美唄市教育支援委員会」等において、きめ細かな状況の把握と、進級・進学に係る適切な対応に努めております。

また、個々の児童生徒の教育的ニーズに対応するため、「美唄市特別支援教育連携協議会」において、特別支援教育コーディネーターを対象とした職能向上研修や、専門家チームによる巡回相談、特別支援教育支援員による支援体制の充実などに取り組んでいるところであります。

特に、通常学級における支援体制の充実につきましては、冬季休業中に市内幼保・小中の担当教員等による「推進会議」を開催し、新年度を見据えた学校間のスムーズな接続に努めるとともに、栄幼稚園・中央小学校・美唄中学校の1園2校において、文部科学省や北海道教育委員会の研究指定校として「障害の特性の理解や指導の在り方」等に関する実践研究に取り組み、その優れた功績に対して、先般、「平成28年度空知管内教育実践表彰」が授与されたところであります。

次年度につきましても、これまでの実践成果をもとにしつつ、引き続き、工夫改善を図りながら、障害の状態や発達の段階に応じた適切な指導の在り方など、特別支援教育の一層の充実に向けて取り組んでまいります。

次に、インクルーシブ教育システムについてであります。中教審によりますと、インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することや、小中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性ある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要であるとされております。

現在、本市の小中学校におきましては、「個別の指導計画」等を作成し、ＩＣＴの活用を図りながら、一人一人のニーズに応じたきめ細かな指導に当たるとともに、「美唄市特別支援教育連携協議会」等を通じて、多様な支援体制の構築と合理的な配慮に努めております。

また、支援学級と通常学級との交流のほか、美唄養護学校と小中学校との居住地交流を実施するなど、学校間連携も進めており、教育委員会といたしましても、この取組みを継続してまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (1) 教育行政執行方針について

質問内容

次は、大綱 2 点目の教育行政について伺います。

1 つ目として「確かな学力の育成について」伺います。

沖縄県における、全国学力テストでは、全国平均を下回る結果を改善しようと、教育研修や、学力テストで高い評価のある県外の学校と、毎年 2 人ずつ教員を派遣し合うなど、交流を行うようになったことで、わずか 1 年間で、学力テストの結果も向上し、成果を上げていると、沖縄県教育委員会から、お伺いしました。

これは、沖縄県の現職の教員小中、それぞれ 1 名が県外の教員と共に、担任も持ちながら 1 年間を過ごし、その地で学んだノウハウを沖縄で実践する、という内容を平成 21 年から継続して行っているとの事です。これは単に学力を伸ばすノウハウだけでなく、人事交流を通して「授業をよりよくする」「充実した授業を行う為」には、どのような事が必要か、様々な収穫を得て、沖縄で実践し、成果を出している、との事です。

本市におきましても、ICT や習熟度別学習への取組みなどを通して、きめ細かな指導に取り組んでいることが分かりましたが、これらに加えて、さらに学力向上を目指し、新しく取り組む内容があれば伺います。

また、好成績を育んでいる秋田県との交流があると伺っておりますが、今後の本市の学校教育の向上に向け、この人事交流を、どのように「確かな学力の育成」に繋げていこうと考えているのか、お伺いします。

答弁内容

（確かな学力の育成について）であります。

新年度から、標準学力検査を従来の小学校2年生、5年生、中学校2年生の3学年から、小学校3年生、4年生と中学校1年生を加えた6学年へと拡充し、義務教育9年間を見通した個々の経年変化について詳細に分析・検討することとしており、学力向上に向けた全市的な取組みと、各校の特性を生かした教育活動との相乗的な効果を図りながら、児童生徒に基礎的、基本的な力が身に付くよう努めてまいります。

また、市内の小学校から、北東北との人事交流により秋田県の小学校に2年間、教員を派遣しておりましたので、その知識と経験を本市において還元し、活用を図ってまいりたいと考えております。

本市といたしましては、今後とも、先進的な取組み事例を参考にするなどして、指導方法の工夫改善に努めるとともに、きめ細かな指導の充実に取り組んでまいります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (2) 学習指導要領について

質問内容

2 つ目は、「新学習指導要領」について教育長に伺います。

文部科学省は、小中高校の学校教育の基準となる「学習指導要領」を約 10 年ぶりに全面改訂する方針であり、改訂された内容での授業は、2020 年度から順次導入される予定となりました。改訂の背景としては、子供たちに、情報化やグローバル化など、急激な社会的変化の中でも未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることの出来る学校教育を実現するということです。

その中で、小中学校の「社会」では、領土教育の充実を図る為、竹島、尖閣諸島が「日本固有の領土」と初めて明記され、また「英語教育の強化」が示されており、小学校 3・4 年では、英語に慣れ親しむ「外国語活動」を、小学校 5・6 年では、正式な教科として行なわれることになりました。

そこで、本市として、今後 2020 年に向けて、特に「英語」について、どのようなスケジュールをもって円滑に取り組めるよう考えているか、伺います。

答弁内容

(学習指導要領の改訂について) であります。

小学校においては平成３２年度、中学校においては平成３３年度から全面実施されることとされており、改訂の方向性としては、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実」、「新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し」、「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」の３点が示されております。

小学校における外国語教育におきましては、３・４年生において「活動型」、５・６年生において「教科型」の授業が実施されることに伴い、年間３５単位時間の授業時数が、新設または増加することとなっております。

本市といたしましては、平成２９年度に外国語教育に係る検討委員会を設置し、改訂の趣旨等についての周知徹底を図るとともに、各校における「柔軟な時間割の検討」に取り組んでまいります。また、平成３１年度までには、小学校１年生から４年生においても外国語に親しむ機会を設けるなどして、学習指導要領の円滑な移行に努めてまいります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

川上 美樹 議員
教育委員会学務課

件 名 2 教育行政について

中項目 (2) 学習指導要領について

質問内容

2つ目として「新学習指導要領」における「英語」の教科化についてですが、現在の小学校における、20代若手教員を除く教員の多くは、英語の教科は想定していない状況で教員免許取得し、指導を行っていますが、例えば、音楽や理科などの専科として行うという方法、また中学英語教師の派遣という方法なども、視野にいれるべきかと思いますが、このことにつきましては、どのようにお考えか伺います。

答弁内容

（英語の教科化に伴う指導体制の充実について ）であります。現在、外国語指導助手の効果的な活用について、各学校の活用状況等を踏まえて検討しているところであり、このことについて、一層、充実を図ってまいります。

また、中学校教諭が小学校に出向いて行う授業実践については、算数の学習などで実施している学校もあることから、地域人材の活用を含めて、英語における連携の在り方について検討してまいります。

英語専科等の教員の配置につきましては、現在、指導工夫の改善

に係る加配教員数に限りがあることから、各学校の状況に応じて取り組んでまいります。

教育委員会といたしましては、グローバル社会に対応した教育環境づくりを進めるため、英語教育の拡充強化は重要な要素であると認識していることから、指導計画の作成や教材の活用など、教員への支援に配慮しながら、次期学習指導要領の先行実施に向けて協議を重ねるなど、スムーズな移行に努めてまいります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 3 アイヌ文化について

中項目 (2) アイヌ文化について

質問内容

美唄市の語源はアイヌ語で、点在する沼にカラス貝が多く生息するところに由来している。

アイヌ文化に関する件で、70 年の歴史あるアイヌ協会を調べると、アイヌ文化振興法の制定や、先住民族として認めたことに結実させた等の成果が多い。

現在、政府も法的措置の本格検討に入っている。

アイヌ民族が差別を受けた歴史や貧困について、国民の理解が不可欠で厳しい生活実態が影を落としており、新法や道が白老町に整備する「民族共生象徴空間」の設置に向け期待が寄せられ、道議会も昨年 7 月、市議会も 12 月議会で新法の早期制定を意見書として全会一致で可決した。

次の点を伺いたい。

- ① 市長は、共生社会実現のために、どのような感じをもっているのか。
- ② 教育長に対し、教科書にアイヌ文化の記述はあるのか。

答弁内容

(アイヌ文化等の教科書への記載について) ですが、

市内小中学校において使用している教科書で申し上げますと、現在、小学校5年生から中学校3年生までの社会科の教科書において、また、小学校3年生と4年生につきましては、社会科の授業において使用する副読本「びばい」において記載されているところであります。

内容について申し上げますと、小学校3・4年生では、アイヌの人たちの暮らしの様子について触れ、更に「調べ学習」等を通じて、アイヌの文化や歴史などへの理解を深めることとしております。

小学校5年生では、「自然に生きるアイヌの人たちの暮らし」という単元で、伝統的な暮らしの様子や、文化を伝えていくことの大切さについて触れております。

小学校6年生では、江戸時代の「鎖国」を学ぶ中で、アイヌの人たちとの交易を紹介したり、明治政府の時代に、アイヌ民族の伝統的な文化や習慣が禁止されていったことなどが記載されております。また、「憲法と私たちの暮らし」の中で、「先住民族の人々の人権」として、アイヌ民族を含む世界の先住民族の権利を目指す宣言が、国際連合で採択されたことなどに触れております。

中学校では「地理」「歴史」「公民」の全ての教科書に記載があり、アイヌの文化や歴史、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が国会において採択されたことなどについて学習しているところです。

また、総合的な学習の時間において、アイヌの人々をテーマにした学習に取り組んでいる学校や、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構による研修会等に参加して、アイヌ民族に関する授業の工夫改善に取り組んでいる教員もおります。

教育委員会といたしましても、児童生徒が、アイヌ民族の文化や歴史について正しい理解をもつことができるよう、今後とも、学校へ働き掛けてまいります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 3 アイヌ文化について

中項目 (2) アイヌ文化について

質問内容

副読本「びばい」は、小学校 3・4 年生のみに使われているものなのか。

また、「調べ学習」とは、教科書、副読本以外にテーマを定め、学習をする意味のことか。

答弁内容

(副読本「びばい」について) であります。

はじめに、使用している学年につきましては、小学校 3・4 年生であり、社会科の授業において、本市の歴史や文化、産業などを学ぶための資料として活用しております。

次に、「調べ学習」について申し上げますと、アイヌの人たちの暮らしの様子について全体で学習したあとで、個人や小グループに分かれて、アイヌの言葉や地名、衣食住等について、図書やインターネット、郷土史料館などで更に詳しく調べていくという活動であり、副読本に沿って学習内容を深めるためのものであります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 日の丸、君が代について

質問内容

1999 年に制定された「国旗・国歌法」は、第 1 条で「日の丸」を国旗と、第 2 条で「君が代」を国歌と定めただけで、尊重義務規定を盛り込むことができなかった。そのことは、学校行事などで掲揚、斉唱すべき義務を課したり、掲揚に反対したり、歌わなかった人に対して不利益を課すなどの規定はおいていない。

市も過去、この件について、学校現場で混乱する不幸な事が起きている。教職員が憲法で保障する内心の自由により、秩序や服従を余儀なくされる事態が、伸び伸びとした学びが保障されるとは思えない。

伺いたい点は、

- ① 道教育委員会から、新たな通達はなかったのか。
- ② 教育委員会の職員による各学校での監視は必要ないので、中止すべきである。

答弁内容

(国旗・国歌について) であります、

- ① 北海道教育委員会においては、従前どおり学習指導要領の趣旨を踏まえた適切な実施及び儀式的行事の意義を踏まえた内容とする

よう通知がなされているところであり、新たな内容の通知はありません。

② 次に、小中学校の卒業式等についてであります。市教育委員会の告辞を述べる各教育委員とともに、児童生徒の卒業や入学を祝う立場で市教育委員会職員も参列しており、各学校の創意工夫のもとに整然と式が行われているところを見させていただいているものであります。これにつきましては、続けてまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

森川 明議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 日の丸、君が代について

質問内容

卒・入学式における教育委員会職員の参列は、祝う立場で見せていただくことは、全く問題はない。あえて、質問に監視という表現を使ったが、任務として口パク等の確認はないと理解してよいのか伺う。

答弁内容

（市教育委員会職員について）であります、
各学校に出席する教育委員に随行し、ともに児童生徒の卒業や入学を祝う立場で参列して、各学校が厳粛な中にも創意工夫を凝らして行う卒業式等の様子を見させていただいているところであります。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

山崎 一広 議員
教育委員会学務課

件 名 4 教育行政について

中項目 (1) 教育行政執行方針について

質問内容

①教育行政執行方針では、多くの皆さんの声を聴き、対話を通じた相互理解をもとに、必要な決断を的確に行うことが求められていると考えております。さらに、地方創生の礎となる教育をはじめとする生涯学習や生涯スポーツなどの重要な分野における大きな役割を踏まえ、未来に向かって前進することができるよう、全力を傾注してまいりますと言われたが、具体的に「どのような方法で声を聴き、傾注していくのか」、その考え方と進めていく手法等教育行政に対する姿勢について伺います。

答弁内容

（教育行政に対する姿勢について）であります、
①私は、グローバル化や急激な情報化など先を見通すことの難しい時代において、生涯を通じて不断に学び、考え、様々な困難を乗り越えながら、いくつになっても夢と志の実現のために挑戦し、自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育成することが教育の基本であると考えております。
この基本を実践するため、私は、「美唄の子どもたちは、地域全体で育てていく」という認識のもと、目の前にある課題に対しては、

決して先送りすることなく、常に危機意識と対話の姿勢を重視し、スピード感をもって丁寧に対応するとともに、学校、家庭、地域、関係機関、団体、そして市民一人一人に対しては、様々な機会を通じ、学校や地域等に出向き、それぞれが抱える課題について直接声を聴き、それぞれが共通の認識のもと、生涯を通じて学びの共同体としての意識を醸成するなど、学校や地域等との「繋がり」の強化・深化を念頭に、本市教育の振興に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

山崎 一広 議員
教育委員会生涯学習課

件 名	4	教育行政について
中項目	(2)	平成 28 年度及び平成 29 年度の指定管理費の内訳について

質問内容

平成 28 年度及び平成 29 年度について、収入では利用料金、支出では人件費と物件費の電気代、ガス代、水道代、いわゆる光熱水費について、どのように算出しているのかお聞きします。

答弁内容

(平成 28 年度及び平成 29 年度の指定管理費の内訳について)
であります、

はじめに、平成 28 年度の指定管理費につきましては、人件費では、市の嘱託職員、臨時職員の単価の改定に合わせ積算し、光熱水費及び利用料収入につきましては、直近 2 ヶ年の平均値をもとに積算しておりましたが、昨年 3 月に市民会館大ホールの浸水被害があったため、大ホールの使用中止期間、この管理運営に係る経費は、再開までの間凍結しました。

大ホールの改修が 11 月末に完了したことに伴い、この凍結を解除し、あわせて光熱水費については、大ホールの使用休止に伴い使用量が減ったことから、平成 28 年 4 月から 11 月までの実績に加え、12 月から 3 月までの分は当初積算をもとに再積算したところであります。

また、利用料収入につきましても、大ホール使用休止に伴う収入の減少と、食堂の光熱水費の見直しを行い、再積算いたしました。

次に、平成２９年度の指定管理費につきましては、平成２８年度の積算の仕方をもとにし、支出については、利用実態を踏まえ、一部を見直しました。

見直した部分としましては、食堂の光熱水費を市の歳入とすることとし、指定管理費から除き、光熱水費全体としては、前年度当初予算をもとに積算いたしました。

また、大ホールの照明・音響操作にかかる業務について、大ホール再開時から常駐方式を見直し、使用の都度、依頼することとし、経費を積算いたしました。

これに合せ、大ホールの照明・音響操作で見込んでいた人件費については、物件費の中に委託料として積算いたしました。

利用料収入については、これまでどおり直近２ヶ年の平均値をもとに積算しております。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

再質問

山崎 一広 議員
教育委員会生涯学習課

件 名	4	教育行政について
中項目	(2)	平成 28 年度及び平成 29 年度の指定管理費の内訳について

質問内容

答弁された、2 点について、伺います。

大ホールの使用中止期間の管理運営に係る経費について凍結したとのことですが、凍結している間も光熱水費については、基本料金等発生しているのではないか。その分の指定管理者への支払いはどうなっていたのか。

また、なぜ「食堂の光熱水費」について、平成 29 年度から市の歳入としたのか。この 2 点について伺います。

答弁内容

（大ホール使用休止期間中の権利運営費及び食堂の光熱水費について）であります。

はじめに、大ホール使用休止中の管理運営費については、照明・音響操作に係る経費について凍結しておりました。光熱水費の基本料金については、本館と一体契約となっていることから指定管理費の中で支払っております。

次に、食堂の光熱水費についてであります。食堂については、指定管理業務には含めず、行政財産の一部使用許可をしていること

を鑑み、また、随時監査での指摘もありましたので、平成29年度からは、市の歳入とすることといたしました。

平成 29 年 第 1 回 定例会 一般質問

山崎 一広 議員

教育委員会スポーツ振興課

件 名 教育行政について

中項目 (1) スポーツ振興について

質問内容

①陸上のクロスカントリーについて

一般の市民ランナーにはあまり馴染みのないクロスカントリー走ですが、実施してみるとその効果のほどがすぐに実感できる。

かなりおすすめのトレーニング方法と言えます。

舗装された道路や陸上トラックではなく起伏のある芝生や未舗装の小道などを走る競技で、自然公園やハイキングコースなどで行われることが多くあります。

山道を走ることも多いためトレイルランとよく混同されがちですが、特に明確な区分けはなく、「陰しく普段のランニングフォームで走るのがキツイ」と言われております。

そこで、教育長は、クロスカントリーの導入について、どのような認識でおられるのか、予算もそれほどかからず取り入れてはどうかお聞きします。

②小学生のマラソン大会について

全道でも全国でも大会は開催されておりますが、本市も取り入れてはどうか？

距離も3キロ～5キロ前後で、幸い本市には公認のコースもあり、陸連などと協議し、ぜひ取り入れて開催してはどうか伺います

答弁内容

（陸上のクロスカンントリーについて）であります、道内での取り組み状況といたしましては、伊達市や黒松内町に専用コースがあり、大会の開催なども行われていると承知しております。

教育委員会といたしましては、まずは、情報収集を行い、本市での取り組みの可能性を探ってまいりたいと考えております。

次に（小学生のマラソン大会について）であります、

本市では、毎年9月にピパオイヘルシーロードレースを開催しており、小学生向けのコースとして、小学3年生以下男女別2Kmと3Kmコース、4年生から6年生までの男女別2Km、3Kmコースと学年別や距離別を実施しており、昨年の大会では、市内外から2kmに47名、3kmに51名の小学生の参加がありました。

教育委員会といたしましては、今後とも、この大会に小学生が参加しやすくなるような工夫を実行委員会と協議してまいりたいと考えております。